

イバラトミヨの生態 ◇ 営巣～旅立ちまで

イバラトミヨは淡水魚で、水温の低い湧水が流れる環境に生息している。オスが水草などを集めて、水中に玉状の巣作りをする珍しい魚。体長は 5cm 程度で背びれにトゲがある。絶滅危惧種に指定されている。

【営巣】

野中地区では、水温が 12℃程度になる 4 月後半からイバラトミヨの産卵活動（巣づくり）が始まります。

巣の材料は、水生植物などの繊維と、オスの肝臓から出した粘液です。

【産卵】

オスは巣づくりを終えると、メスを巣に誘うために「ジグザグダンス」と呼ばれる求愛のための派手なダンスを踊ります。オスを気に入ったメスは、オスに導かれて巣の中に入り、40～200 粒の卵を産みます。

【誕生】

卵は直径約 1.3 mm で、お互いにくっつき合っており、7～10 日でふ化します。オスはこの間、卵を食べにくる外敵を追い払ったり、卵が窒息しないように胸びれで新鮮な水を送ったりして卵を保護します。

【旅立ち】

ふ化した仔魚は、巣のまわりにしばらくとどまり、お腹の卵嚢から栄養を摂って成長します。その後、水草の影などに隠れながら、小さな生き物（プランクトン・ユスリカの幼虫など）を食べて 1 年程度で大人になります。

一方、役目を終えた親魚は寿命が尽きると、それまで餌にしていた生き物たちの餌となります。こうして水の中の生態系が紡がれていきます。

【写真提供：星川 靖捷 氏】

◇記事に関するお問い合わせ◇

山形県新庄市農林課

山形県最上総合支庁農村計画課

TEL：0233-22-2111（代表）

TEL：0233-29-1342（直通）



イバラトミヨ塾で

環境保全を学ぶ

新庄市

体験から大切さを
学ぶ児童たち

新庄市で農村環境保全指導員として活躍される今田辰雄氏は、地元小学校 4 年生を対象として「イバラトミヨ塾」を年 4 回開催している。この活動は平成 18 年度から「野中・中川原イバラトミヨ保全協議会」で行っており、たくさんのお子さんが参加してきた。

イバラトミヨ塾を通して今田氏は、地元小学校の児童達に「なぜ、このような環境が必要なのか」ということを伝えている。実際に見て、触れて、体験しながら学び、そこから何かを感じ、そして考える。「地域の自然環境やそこに生息する多くの生き物をより多く将来に残せたら」そんな思いを胸に、この活動を続けて行きたいと考えている。



近くの川にはどんな生き物がいるかな。



イバラトミヨの保全池で観察。